

令和6年1月16日

担当課：文化振興課
直 通：092-643-3382
内 線：2832
担 当：市村、森

第31回福岡県文化賞受賞者を決定しました

- 福岡県では、県民の皆さんの幅広い文化活動を促進し、本県文化の向上・発展を図るため、文化振興に顕著な功績のあった個人や団体に「福岡県文化賞」を贈っています。
- 平成5年度の創設以来、これまで120の個人・団体を表彰してきました。
- このたび、市町村、文化関係団体、報道機関等から推薦があった個人・団体の中から、外部有識者で構成される「福岡県文化賞選考委員会」の選考を経て、

- ・創造部門 さかぐち のぶお 坂口 信男さん、さかぐち たかのぶ 坂口 貴信さん（能楽師 観世流シテ方）
- ・社会部門 劇団ショーマンシップ（演劇）
- ・奨励部門 たなか ちさと 田中 千智さん（画家）

に、第31回福岡県文化賞を贈呈することを決定しました。

- 今回の文化賞贈呈式&記念イベントは、令和6年3月19日（火）に、アクロス福岡で行う予定としています。

1 受賞者の概要

別紙のとおり

2 福岡県文化賞について

- ・趣 旨：芸術文化、地域文化、伝統文化、生活文化など様々な視点から県民の文化活動を多角的にとらえ、特色ある文化活動により文化の振興に顕著な功績のあった個人や団体を表彰し、もって県民の多様な文化活動を奨励し、本県文化の向上・発展に資すること
- ・表彰部門：3部門（創造部門、社会部門、奨励部門）

〔創造部門〕

1. 氏名 父：坂口 信男（能楽師 観世流シテ方）
子：坂口 貴信（能楽師 観世流シテ方）
2. 年齢 父：78歳、子：47歳 ※R6.1.16現在
3. 住所 父：福岡市中央区
子：東京都（出身：福岡市）



【経歴及び選考理由】

坂口 信男氏（父）・貴信氏（子）

父：信男氏は、昭和47年に「坂口松謡会」を継承。現在は、子：貴信氏とともに、親子で「坂口松謡会」を主宰し、お弟子さんのお稽古や年1回の発表会を開催している。

さらに、親子で、平成17年から毎年恒例開催となっている「能楽体験講座『箱崎教室』」の講師を務め、地元・管崎宮ゆかりの能「箱崎」や能「唐船」の謡と仕舞の指導を行うなど、能楽の普及や次世代の能楽師育成に尽力している。

伝統芸能を父から子に引継ぎ、父：信男氏は福岡において長く能楽界を支え続け、子：貴信氏は伝統芸能を守りつつ歌舞伎とのコラボなど現代に合わせた演出により、福岡・東京をはじめ海外での多彩な活動を展開する。このように、親子で能楽の普及・継承に尽力しており、本県の伝統芸能の振興に貢献している。

坂口 信男氏（父）

昭和25年5歳にして、仕舞「鶴亀」で初舞台を踏む。大西信久の内弟子として入門。9年間の修行を経て、昭和47年独立。公益社団法人能楽協会九州支部所属。

公益社団法人能楽協会九州支部初代副支部長として、能楽の普及・継承に努めるとともに、県が能楽の振興を図り設置した「福岡県伝統文化普及協議会」会長、「福岡県能楽普及実行委員会」委員長を務め、能楽入門講座の開催に尽力するなど、長年にわたり本県における能楽の普及に貢献している。

坂口 貴信氏（子）

昭和53年2歳にして、「鞍馬天狗 花見」で初舞台を踏む。二十六世観世宗家・観世清和師の内弟子として入門。8年間の修行を経て、平成22年独立。公益社団法人能楽協会東京支部所属。

国内外において能楽の公演活動を行うとともに、東京藝術大学非常勤講師、国立劇場養成所講師として後進の育成にあたるほか、市川海老蔵（現：市川團十郎白猿）の歌舞伎座一ヶ月興行への参加、能面型3Dメガネで鑑賞する3D能や、ヴァーチャルリアリティの情報技術を駆使したVR能の監修及び出演を行うなど、能楽の普及を目指した多彩な活動を行っている。

【坂口 信男氏（父）】

- 役職歴
 - ・福岡観世会設立理事
 - ・公益社団法人能楽協会九州支部 初代副支部長
 - ・福岡県伝統文化普及協議会
 - *設置：H3～H17 信男氏は、H17に会長を務める
 - ・福岡県能楽普及実行委員会
 - *設置：H18～R2 信男氏は全期間、委員長を務める
- 公演歴
 - ・よかとピア 能公演「石橋」
 - ・福岡ドーム 能公演「吉野天人」
 - ・上海万博 能公演「石橋」
 - ・アジア美術館 能公演「猩々」
- 受賞歴
 - ・重要無形文化財総合保持者認定（S61）
 - ・福岡市文化賞（R4）

【坂口貴信氏（子）】

- 役職歴
 - ・東京藝術大学 非常勤講師
 - ・国立劇場伝統芸能伝承者養成所 講師
- 公演歴
 - ・「坂口貴信之會」（H24から10回開催）
 - ・「MUGEN∞能」（H27から17回開催）
 - ・「三人の会」（H28から9回開催）
 - ・海外公演
 - ベルサイユ宮殿（パリ）
 - リンカーンセンター（NY）
 - カーネギホール（NY）ほか
- 受賞歴
 - ・重要無形文化財総合保持者認定（H29）

（参考）創造部門：個性的・創造的な文化活動を行い、優れた業績を残し、県民文化の向上・発展に貢献したもの

〔社 会 部 門〕

1. 団 体 名 劇団ショーマンシップ
2. 分 野 演劇
3. 設 立 年 平成6年（30年目）※R6.1.16現在
4. 所 在 地 福岡市中央区



【経歴及び選考理由】

福岡市中央区唐人町商店街の中にある、甘棠館 Show 劇場を拠点とし、九州を中心にTV、ラジオ等幅広く活動を続け、今年度、創立30周年を迎える。

座長・仲谷一志氏、座付作家・市岡洋氏・生田晃二氏をはじめ、劇団員20名と提携スタッフにより、時代劇からファミリーミュージカルと幅広く作品を展開。

地元の歴史を掘り起こした時代劇、筑前亀門烈伝シリーズ、唐人歌舞伎シリーズは時代劇ファンのみならず、若い世代にも好評を得ている。

さらに、子どもたちに本物の舞台芸術を鑑賞する機会を提供するため、学校等における公演も積極的に行っており、これまでに小・中学校、特別支援学校等において約800回の公演を実施。文化庁の巡回公演事業に採択され、その活動は九州にとどまらず、全国に活動の場を広げている。（平成18年度「本物の舞台芸術体験事業」～令和5年度「文化庁学校公演巡回事業」）。

平成26年には創立20周年記念公演「亀井南冥伝～金印の謎を生んだ男～」を、令和元年には創立25周年記念公演「THE NIWAKA～ふてえがってえ男の話」を博多座で公演。令和4年運営委託されている「あしや夢リアホール」にて遠賀郡芦屋町出身で現存する日本最古の国産車アロー号を作った矢野倅一の物語、「大正くるま浪漫～矢野倅一の挑戦～」を制作公演し、令和5年は、同作を新演出して福岡市民会館で再演した。そして令和6年12月には創立30周年記念公演として「創作オペレッタ こんこんあり～せいもん払いを初めた男 八尋利兵衛伝～(仮題)」の博多座での公演が予定されている。

このように本団体は、平成6年の発足以来、地域密着型の劇団として、地元福岡を題材にした舞台制作に精力的に取り組んでおり、本県の演劇文化の振興に貢献している。

■主な上演作品

- ・ノートルダム物語
- ・ないた赤おに
- ・親鸞聖人
- ・唐人歌舞伎シリーズ 他

■主な団体歴

- ・日本児童・青少年演劇劇団協同組合加盟

■主な受賞歴

- ・福岡市民文化活動功労賞（R2）



創立20周年記念公演「亀井南冥伝～金印の謎を生んだ男～」



学校公演演目「ノートルダム物語」

（参考）社会部門：地域の特性を活かした活動を行い、個性豊かで潤いのある地域社会づくりに功績があったもの又は国際交流、地域間交流など広範な文化交流活動を行い、相互理解、文化交流の発展に貢献したもの

〔奨励部門〕

1. 氏名 田中 千智 (画家)
2. 年齢 43歳 ※R6.1.16現在
3. 住所 福岡市西区



【経歴及び選考理由】

多摩美術大学卒業。平成18年から、福岡を拠点に画家として活動を開始。

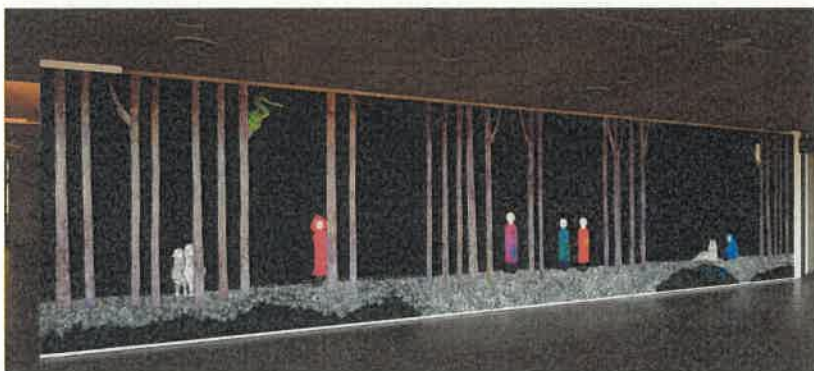
自身の代名詞となる画風を模索し、平成20年、アクリル絵具を使ったフラットな漆黒の背景に、艶やかな油彩で前景を描くという独自の手法を開拓。この「黒い絵」と呼ばれる作品には、笑みとも怒りともとれる人物の表情、漆黒の中にきらめく風景など、相反する要素が組み合わせられて描かれており、観る者に強い印象を与え、その想像力をかきたてる。

福岡市に在住しながら、福岡、東京で多数の個展を開催するほか、韓国、シンガポール、台湾、香港、イギリス、フランスなど海外での展覧会にも多数出品している。その他、書籍の装丁画、小学館新本社ビルの大作壁画など幅広い活動を行い、福岡を拠点とする作家の代表格の一人となっている。

アートフェアや公募展にも多数参加しており、平成20年には、アート情報誌「art-icle」が主催する公募展「art-icle賞展」オーディエンス賞を、平成22年には、新進作家たちの埋もれた才能を掘り起こし、日本の美術界を背負う有力な作家を出来る限り多く世に送り出すために企画された「ART AWARD NEXT #1」（東京美術青年会主催）において青年会賞を受賞。

さらに、平成24年には、全国の美術館学芸員、ジャーナリスト、研究者などに40才以下の若手作家の推薦を依頼し、その作家が平面作品の新作を出品するという方式により国内各地から未知の優れた才能を紹介する「VOCA展2012」（「VOCA展」実行委員会／公益財団法人日本美術協会上野の森美術館主催）に推薦されたほか、平成25年には、年齢・所属を問わず、真に力がある作品を公募する「FACE 2013（損保ジャパン日本興亜美術賞）」（東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館／読売新聞社主催）において優秀賞を、令和元年には、芸術、学術等の発展と向上に貢献した方を顕彰する「西日本文化賞（公益社団法人西日本新聞文化財団）」において奨励賞を受賞するなど、様々な賞に入賞・受賞を果たしている。

また、福岡市美術館が3年に1回、気鋭のアーティストに壁画制作を依頼する企画展「ホワイトウォールプロジェクト」の初回アーティストに選ばれるなど、氏は創作活動を通じて、本県の美術文化の振興に貢献しており、今後の活躍が大いに期待される。



「生きている壁画」

（場所：福岡市美術館 2階大壁画）

- R7.12月末までの3年限定の展示。
1年ごとに加筆を加え、壁画を変化させていく。
（第1弾）R5年1月末完成
（第2弾）R6年1月5日～27日まで制作中
（第3弾）R7年1月制作予定



2023クリスマスアドベントメインビジュアル
「木の上で待つ人々」

【主な受賞歴】

- 財団法人守谷育成会 美術奨励賞 (H14)
- 第10回新日鐵アートスカラシップ飛幡展 入選 (H14)
- トーキョーワンダーウォール入選 (H15)
- art-icle編集部主催「art-icle Newcomer Artist」入選 (H19)
- art-icle編集部主催 art-icle賞展 オーディエンス賞 (H20)
- ART AWARD NEXT #1 青年会賞 (H22)
- 新世代への視点2010 選出 (H22)
- VOCA展2012 推薦 (H24)
- 損保ジャパン日本興亜美術賞 優秀賞 (H25)
- 西日本文化賞奨励賞 (R1)

（参考）奨励部門：個性的・創造的な創作活動を行い、かつ、将来一層の活躍が期待されるもの。

福岡県文化賞受賞者一覧

回	年	創造部門	交流部門	社会部門	奨励部門	特別部門
1	H5	画家 野見山 暁治	ベシヤワール会	嘉穂劇場 代表 伊藤 英子	篆刻書道家 師村 妙石	財団法人 九州交響楽団
2	H6	作家 森崎 和江	北九州国際音楽祭 音楽 監督 新井 淑子	幸若舞保存会	作家 杉本 章子	葦書房 有限会社
3	H7	RKB毎日放送 ユグゼクティブプロデューサー 木村 栄文	アジア美術家連盟 日本委員会	遠賀川に鮭を呼び戻す 会	作家・精神科医 帯木 蓬生	劇団 青春座
4	H8	画家 菊畑 茂久馬	福岡県 子ども劇場連絡会	筑豊青少年交響楽団 代表 伊藤 光	俳優 中西 和久	声楽家 渡辺 葉子
5	H9	建築家 葉 祥栄	クレーアーチスト 高鶴 元	北九州交響楽団	画家 井上 敬一	九州交響楽団 音楽監督 石丸 寛
6	H10	作家 村田 喜代子	飯塚新人音楽 コンクールを育てる会	漂着物研究家 石井 忠	鋳金家 遠藤 喜代志	グラフィックデザイナー 松永 真
7	H11	作家 白石 一郎	筑後吉井の小さな美術館め ぐり実行委員会	田川合唱団 代表 田中凡平	造形美術家 江上 計太	漫画家 松本 零士
8	H12	書家 松永 隆	社団法人 福岡県美術協会	福岡県地方史研究会 古文書を読む会	陶芸家 福島 善三	文芸評論家 星加 輝光
9	H13	作家 夏樹 静子 CGアーティスト 河口 洋一郎	特定非営利活動法人 アジア女性センター	日本史研究家 川添 昭二	(該当者なし)	ヴァイオリニスト 篠崎 史紀
10	H14	作家 高樹のぶ子	彫刻家 外尾 悦郎	田川郷土研究会	映画監督 青山 真治	写真家 石川 賢治
11	H15	作家 佐木 隆三	胡弓奏者 趙 国良	筑豊博物研究会	久留米絃作家 松枝 哲哉	財団法人 末永文化振興財団
12	H16	写真家・随筆家 藤原 新也	雅楽演奏団体 筑紫 楽所	博多史・郷土女性史研究 家 武野 要子	フルート演奏家 瀬尾 和紀	文学批評家 故・花田 俊典
13	H17	画家・版画家 川原田 徹	劇団 道化	音楽文化団体 フリゾン 吹奏楽団久留米 口演話家 本村 義雄	(該当者なし)	彫刻家 豊福 知徳
14	H18	博多人形師 中村 信喬	国際化コーディネータ ニック・サーズ	民俗研究家 佐々木 哲哉	ヴァイオリニスト 南 紫音	博多織作家 小川 規三郎
15	H19	声楽家 蓮井 求道	指揮者 フォルカー・レニック	出版社 有限会社海鳥社	劇団主宰 大塚ムネト	漫画家 長谷川 法世
16	H20	陶芸家・詩人 山本 源太		十八世紀音楽祭協会	建築家 松岡 恭子	
17	H21	キルト作家 山口 怜子		郷土史研究家 深町 純亮	写真家 百瀬 俊哉	
18	H22	作家 葉室 麟		庶民生活史研究家 堀切 辰一	能楽師和泉流狂言方 野村 万禄	
19	H23	作家 平野 啓一郎		日本文学研究者 前田 淑	映像ディレクター 江口 カン	
20	H24	染織家 築城 則子		福岡県立大学附属研究所生涯福祉 研究センター・山本作兵衛さんを(読 む)会	作家 西村 健	
21	H25	ピアニスト 占部 由美子		NPO法人ロシナンテス理事長 川原 尚行	精華女子高等学校 吹奏楽部	
22	H26	染織家 釜我 敏子		特定非営利活動法人ま る	アクロス弦楽合奏団	
23	H27	作家 安部 龍太郎		北九州 フィルム・コミッション	デジタルフットライター/九州大学大学院薬 工学研究院学術研究員 工藤 達郎	
24	H28	美術家 田部 光子		福岡県立図書館 音訳の会	博多人形師 溝口 堂央	
25	H29	写真家 榊 晃弘		BOOKUOKA 実行委員会	和楽団ジャパンマーベ ラス	
26	H30	作家 東山 彰良 ゲームクリエイター 糊レベルファイブ代表取締役/ CEO 日野 晃博		漫才師 博多華丸・大吉	(該当者なし)	
27	R1	漫画家 うえやまとち		中洲ジャズ実行委員会	キャラクターデザイナー 谷口 亮	
28	R2	指揮者 小泉 和裕		アートスペース貌	作家 古川 真人	
29	R3	博多人形師 川崎 幸子		山里の廃校利用美術館 共星の里 黒川INN美術 館	クリエイター 中村 俊介	
30	R4	アニメーション監督 湯浅 政明	公益財団法人 福岡文化財団	人形師 中村 弘峰		

※H20年度から5部門のうち交流部門と特別部門を整理し3部門に統合した

第16期福岡県文化賞選考委員会委員
 (任期:令和5年11月13日～令和7年3月31日)

15名(50音順、敬称略)

氏名	役職	就任期間	摘要
石村 一枝	元株式会社石村萬盛堂 専務取締役	2期目	
大井 実	有限会社キューブリック 代表 ブックオカ実行委員会 委員長	1期目	
尾本 章	九州大学 副学長 九州大学大学院芸術工学研究院 研究院長	1期目	委員長
小山田 英弘	北九州市立大学国際環境工学部 教授	3期目	
吉柳 佳代子	九州大谷短期大学幼児教育学科 准教授	2期目	
塚崎 謙太郎	株式会社西日本新聞社 暮らし文化部長	2期目	
中村 共子	フリーランサー(美術・伝統芸能等)	3期目	
林田 スマ	福岡県文化団体連合会副理事長	1期目	
深町 朋子	福岡女子大学 副学長	1期目	
福島 善三	人間国宝(小石原焼)	3期目	
堀 英明	株式会社ピクニック 取締役プロデューサー	2期目	
宮川 美佐子	福岡女子大学国際文理学部 教授	3期目	
吉中 美保子	西日本鉄道株式会社天神開発本部天神みらい戦略部 部長	2期目	
ラワンチャイケン 寿子	元福岡アジア美術館 学芸課長	3期目	副委員長
渡辺 克	公益財団法人九州交響楽団 音楽主幹	1期目	